

# 草の芽句会だより

老木となりし桜に冬芽出ず  
北向の地蔵に手向け冬に入る  
純子

見上ぐれば象頭の塔も冬の景  
コロナよりマスクに慣れて冬きたる  
節子

陽を受けて紅葉を写し城の濠  
極月の城濠の水すみわたる  
貞子

口達者しゃべりおさめの納句座  
はたきてふ昭和の遺物大掃除  
文子

晴ればれと皇帝ダリア廂超ゆ  
萩園の小さき落葉のころころと  
範子

散り残る桜紅葉に日のやさし  
団栗を拾ひて仰ぐ大樹かな  
禮子

散り敷きて銀杏黄葉の華やげり  
落葉散る濠のベンチに日の移り  
剋子

出席者 川原 氏家 森 吉崎 大黒  
馬場 小山

今日から十二月、堀端ではユリカモメが群れて冬の到来を喜んでいるみたい。大手門を潜ると見上げるような大木が、真っ赤に紅葉して迎えてくれた。名残りの紅葉である。うるし林の木椅子に掛けて各々句作に耽る。広げた句帳に落葉が散りかかる。今日は納句会。この一年間元気で句作を続けてこられたことに、ホットしている。

部屋では豪華なお弁当が待っていた。持ち寄りのお菓子も盛り沢山。恒例となった差し入れのシュトレンに歓声があがる。美味しいものとお喋りで幸せなひと時を過ごす。

昔、「岬」に投句していた頃、先生方の一人が句作りは日記のようなものを書いておられた。五十年以上もの間続けてきた草の芽は、当に私達の人生の日記のように思えてならない。新しい年も元気で頑張ろう。そして私達だけの日記を紡いでいきたい。どうぞ良いお年を。

(注) 新年一月の句会はお休みです。二月は二日(木)になります。

